

「泌尿器癌における糖鎖の変化の検討」に関する研究

1. 研究の対象

大阪大学医学部泌尿器科で治療を受けている 20 歳以上の患者さんで、以下①-⑥のいずれかに該当する方

- ① 前立腺肥大症に対して経尿道的手術を行う
- ② 前治療のない前立腺癌に対して前立腺全摘術を行う
- ③ 前立腺癌やホルモン抵抗性前立腺癌の診断のため前立腺生検を行う
- ④ 前立腺癌の転移巣に対して手術を行う
- ⑤ 前立腺癌による尿路閉塞のため経尿道的前立腺切除術を行う
- ⑥ 腎癌・尿路上皮癌・精巣腫瘍などの泌尿器癌において切除術あるいは生検を行う

13397 の研究同意および附随する包括同意を得ている方について、保存している検体を用いる。

2. 研究目的・方法

細胞の表面は糖鎖という炭水化物が連なった構造物で覆われていますが、細胞が癌化すると糖鎖の構造が変化することが色々な癌で知られています。ある種の癌ではこの糖鎖の変化を調べて癌を早期に発見するためのマーカーとしたり、変化した糖鎖を治療の標的にしたりして、糖鎖の変化を臨床に応用しています。しかしながら、泌尿器癌ではこのような糖鎖の変化についてはほとんど知られていません。泌尿器癌で新たな糖鎖の変化が発見されれば新たな治療方法の確立に結びつく可能性があります。このような背景から、泌尿器癌で糖鎖がどのように変化していくのかを調べることは非常に重要であると考えています。

患者さんから手術や生検で得られた検体で通常診断に用いた残りの検体を用いて糖鎖の変化を調べます。この研究は通常診断に用いた後に、通常なら破棄する検体を用いて行うものです。また、糖鎖を作るための酵素の遺伝子やタンパク質の量の変化についても検討します。解析は大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座、大阪成人病センター研究所免疫学部門および近畿大学泌尿器科にて行います。本研究では、癌組織において起こっている遺伝子変化も調べます。患者さんの子孫に受け継がれるような遺伝的要因を調べるものではありません。

研究期間は 2026 年 12 月 31 日までを予定しております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

試料：手術や生検で採取した検体、血液、尿

4. 外部への試料・情報の提供

データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学講座（泌尿器科学） 野々村祝夫 ほか
大阪府立成人病センター研究所 免疫学部門 宮本泰豪
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座 三善英知
近畿大学泌尿器科 藤田和利
富士フイルム株式会社 吉川友康

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

電話番号 06-6879-3531

担当者の所属 大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学講座（泌尿器科学）

担当者の氏名 波多野 浩士

研究責任者・代表者：

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学講座（泌尿器科学） 教授
野々村祝夫